**金剛乗寺**

梵字が刻まれた石門を通ると、ひっそりとした金剛乗寺の境内に入る。金剛乗寺は9世紀を始まりとする寺院で、山鹿最古と言われている。日本の仏教真言宗の創始者である空海（774–835）により建てられた。

金剛乗寺は、はるか昔の歴史に名高い過去からの、特別なエピソードにより崇敬されている。地元に伝わるところによると、15世紀に山鹿の温泉が長きにわたり枯れ上がった。そこで、当時の金剛乗寺の住職であった宥明法印が温泉の復活を祈願し続け、この間に、癒しの仏陀である薬師如来をご本尊としてこの町の薬師堂を建てた。

宥明法印住職の勤勉な祈禱により、ついに再び温泉が湧き出たと言われている。この出来事を祝って、毎年12月に温泉復活感謝祭が開催される。また、金剛乗寺は、2月に開催される山鹿灯籠浪漫の会場になっており、山鹿灯籠浪漫の開催中は、色鮮やかな傘や竹製の容器にイルミネーションが施され、町中を幽玄な雰囲気で包んでいる。

「金剛」とは、ダイヤモンドと雷挺の物理的特性を体現化した伝説上の仏教の法具である金剛杵を指し、これに関連して、人が持つ精神的な強さや賢明さを暗示する。この文脈における金剛乗寺の名称は、仏教信仰を通じて、悟りを開くことを示唆している。